

## I. 研修の開催に関すること

1. 研修開催場所の箇所数 ( 1 )箇所
2. 研修開催場所の選定にあたって考慮したこと(開催地域や開催会場の選定にあたって考慮した事柄があれば、ご自由にご記入ください)

・府内新人助産師が一堂に会することをめざすために、会場は府内1ヶ所とした。  
・京都府看護協会看護研修センターを中心会場とし、演習を取り入れる講義内容の場合は、教育機関の講義室や実習室を会場とした。

3. 研修開催回数 延べ( 4 )回

\* 助産師に特化しない新人教育部分は新人看護職員研修において実施

## II. 研修受講者に関すること

1. 研修受講者数等(実人員)  
(開催回別に記入してください)

開催回	応募者数	受講者数
第1回	( 35 )名	( 35 )名
第2回	( " )名	( " )名
第3回	( " )名	( " )名
第4回	( " )名	( " )名

※ 必要な場合、行を挿入した上でご記入ください

※ 各講義・演習ごとに部分的に受講する研修形式の場合には、当該講義・演習ごとの人数を記入してください

(講義・演習ごとの記入が不可能な場合は、延数を記入願います)

2. 研修受講者の所属施設  
(実数で記入下さい)

(記載例) -----

【応募者数・参加者数】  
Aさんが、4月と10月に  
研修に参加した場合に  
「1」と計上

施設種別	応募者数	受講者数
病院	( 35 )名	( 35 )名
診療所	( )名	( )名
助産所	( )名	( )名
介護老人保健施設	( )名	( )名
指定訪問看護事業所	( )名	( )名
その他 ( )	( )名	( )名

3. 研修受講者のうち、病院の  
場合の病床規模

許可病床数	受講者数
100床未満	( 6名 )
100～200未満	( 4名 )
200～400未満	( 13名 )
400床以上	( 12名 )

4. 研修の受講資格・選考基準等(施設類型や職位等による基準を設けているか否か等について  
ご自由にご記入ください)

・新人助産師全員が受講対象。  
(新人看護師の合同研修は、300床未満の中小規模施設を対象としている)

## 5. 事業の周知及び公募方法(ご自由にご記入ください)

・平成22年度の新人看護職員研修事業評価を踏まえて、平成23年2月に施設管理者等を対象とした「新人看護職員研修事業に関する情報交換・報告説明会」を開催した際、新たに実施する新人助産師研修について早期に周知を図った。  
 ・年度開始と同時に募集行為を行った。

## Ⅲ. 研修内容に関すること

### 1. 受講形式

- A** 全日程を受講することを基本としたコース形式  
**B** 講義毎に部分的に受講する形式

### 2. 研修プログラム

時期 (月)	研修テーマ	時間数	研修内容・方法
6月	周産期医療の 動向	1	<講義> ・周産期医療の動向 ・安心安全な周産期環境を提供するために期待される役割
〃	周産期におけ る感染管理	1.5	<講義> ・分娩産褥期にかかわる血液・体液の取り扱いをスタンダード プリコーションから学ぶ
〃	母乳育児支援 の一步	2	<講義> ・産褥1週間の乳房の変化を学ぶ
7月	輸液ポンプで 管理する薬剤	2.5	<講義> ・ハイリスク妊産婦に使用する薬剤や分娩誘発剤の知識 <演習> ・輸液ポンプ管理の実際
8月	分娩時の胎児 管理	2.5	<講義・演習> ・分娩時の胎児モニタリングの判読と分娩管理
〃	新生児の心肺 蘇生	2.5	<講義・演習> ・新生児心肺蘇生プログラムBコース
9月	ハイリスク妊 産婦の管理	2.5	<講義> ・切迫早産、多胎、PIH、GBS感染症、糖尿病合併などの病 態と治療

※ 行が不足した場合、適宜追加してご記入ください

※ 時期には実施月をご記入ください。

### 3. 講師数(実人員)

看護職員： ①看護教員(講師、教授など大学の教員も含む) ( 1 )名  
②臨床現場の看護職員 看護部長、副看護部長、看護師長 ( )名  
施設の教育担当者(教育責任者等) ( )名  
専門看護師・認定看護師 ( 3 )名  
その他(元周産期センター師長) ( 1 )名

その他の職種： 職種等( 医師 ) ( 3 )名  
職種等( ) ( )名  
職種等( ) ( )名

### 4. 1回の研修にかかる日数および時間数(日数、時間数の両項目に記載願います)

(1. でBと回答した場合には、1クールの総日数・時間数を回答願います)

( 4 )日 ( 14.5 )時間

5. 4. の内訳 講義 ( 11 ) 時間 演習 ( 3.5 ) 時間  
その他 ( ) ( ) 時間 オリエンテーション ( ) 時間

## IV. 事業の評価等に関すること

### 1. 事業の実施にあたって工夫した点(自由にご記入ください)

・看護師として必要となる新人の基本的な研修は、多施設合同研修(看護師)において受講することとし、開催の順序性や日程が重ならないように配慮した。  
・開始時期は、新人看護職員としての研修がほぼ終了し、助産師としての業務が増加してくる時期を想定して設定した。  
・研修内容は看護協会の助産師職能委員会において検討されたものを実施した。  
内容設定のポイントは、①ガイドライン、助産技術到達目標を参照②OJTで効果をあげられる集合研修を設定③現場で即必要となる技術項目や周産期の代表疾患の管理に関する内容を設定④新生児の心肺蘇生や分娩監視装置の判読などは演習により研修効果を期待  
・元周産期センター師長(助産師)を専任の研修担当として配置し、受講生の状況把握、相談・支援、研修評価を担当した。  
・振り返り用紙を使用し、自身の学びの整理、所属指導者との面接機会の確保、OJTとの連動などに活用することとし、受講生の問題解決や支援に繋がらせるようにした。

## 2. 事業の効果および評価に関すること(自由にご記入ください)

- ・府内新人助産師の88%が受講し、新人助産師が学ぶべき研修内容を平準化することができた。また、助産師同士の交流の場となった。
- ・意欲的に学び、有意義だったという感想が多く、研修目的が達成された。
- ・助産師としてのモチベーションが高まったことがアンケートよりうかがえる。
- ・看護師経験の有無、施設(病院・助産専門病院)により受講生の経験内容が異なっており、求める内容に差があった。本研修は看護職経験のない新人の助産師対象の内容をベースにおく必要があり、個別性への対応は今後の課題である。
- ・受講生の相互支援のための交流や情報交換の場を今後さらに充実していくことが必要。

## V. 事業の委託に関すること

1. 事業の委託    A 委託していない     B 委託している    委託先( 京都府看護協会 )